

日本民俗学会第67回年会  
「世界のなかの民俗学」

プログラム

2015年10月10日（土）・11日（日）・12日（月）

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス



## 目次

プログラム	1
会場	2
アクセス	2
交通案内図	3
会場周辺案内図	4
キャンパス案内図	5
会場配置図	6
年会参加者の皆様へ	8
一般発表の皆様へ	9
一般発表座長の皆様へ	10
グループ発表の皆様へ	11
播州の屋台祭礼見学への参加を希望される皆様へ	11
見学会ご参加の皆様へ	11
公開シンポジウム「世界のなかの民俗学」	12
ミニシンポジウム	13
研究発表タイムテーブル	16
各会場進行表	18

## プログラム

### 10月10日（土）

9:30～10:00	理事会
10:15～12:00	評議員会
12:00～	受付開始
13:00～16:30	公開シンポジウム「世界のなかの民俗学」
16:40～17:50	研究奨励賞授賞式・会員総会
18:30～20:30	懇親会（淡路人形浄瑠璃の上演を予定）

### 10月11日（日）

9:00～	受付開始
9:30～12:00	研究発表・ミニシンポジウム（午前）
12:00～13:00	昼食
13:00～16:30	研究発表・ミニシンポジウム（午後）
研究発表終了後	播州の屋台祭礼見学

### 10月12日（月）

9:30～16:30	見学会 兵庫（柳田國男生家・生野銀山）コース 大阪（都市民俗）コース
------------	--

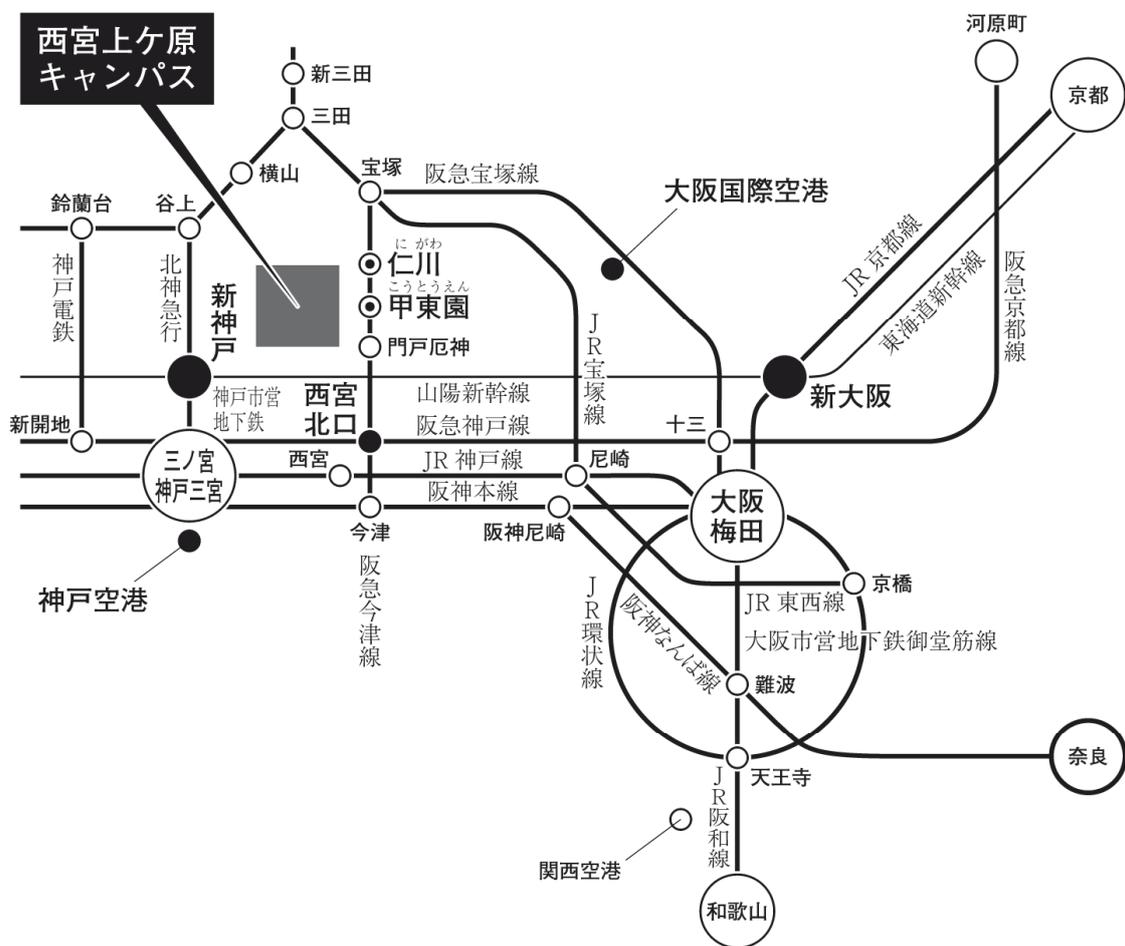
## 会 場

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス （兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155）

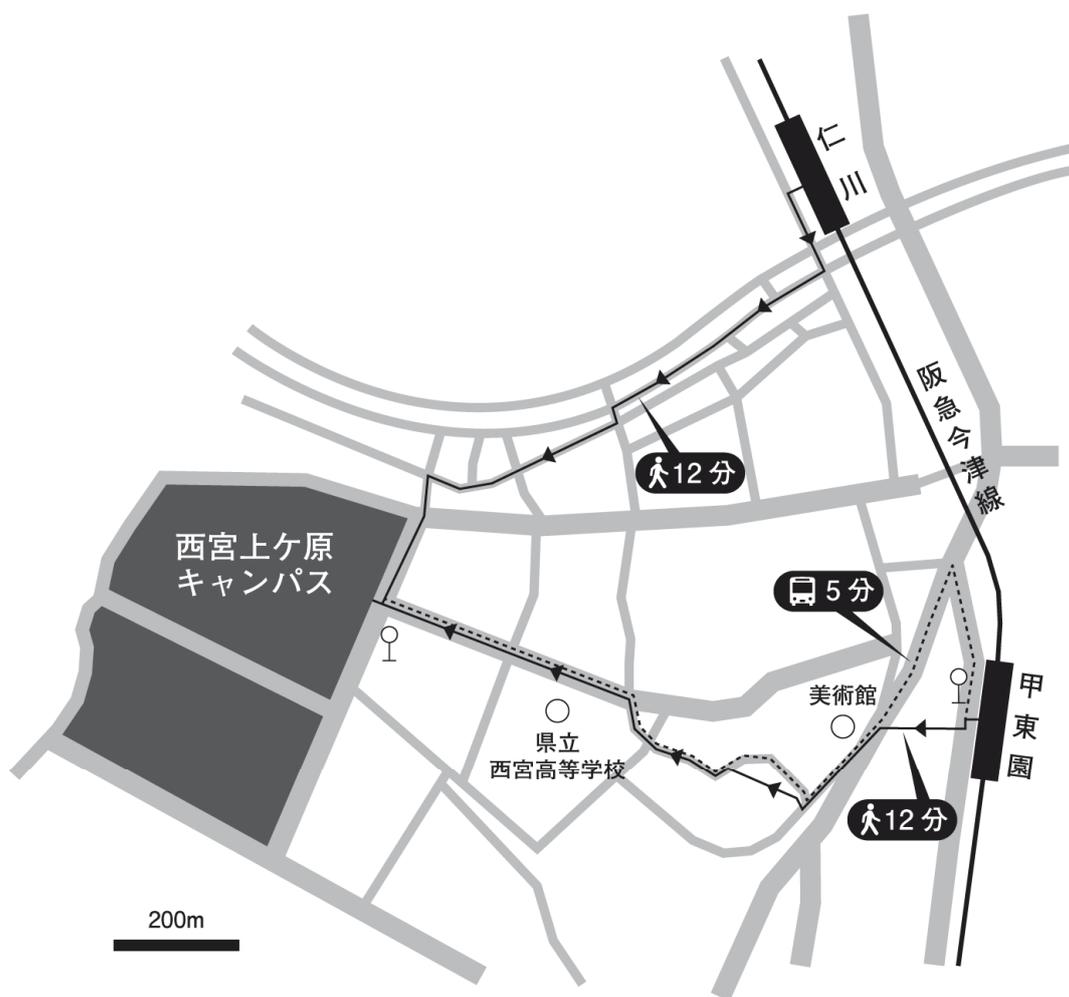
## アクセス

- 1) 阪急神戸線利用の場合、大阪方面からは梅田駅、神戸方面からは神戸三宮駅で乗車し、西宮北口駅で阪急今津線（宝塚行き）に乗り換えて甲東園駅下車。関西学院方面行き阪急バスで3つ目「関西学院前」下車。
  - 2) JR 神戸線利用の場合、JR 西宮駅から阪急バス甲東園行きで「関西学院前」下車（所要約 20 分）。JR 西宮駅からタクシーを利用される場合は、会場まで 1400 円程度です。
- ・学内に駐車場はありません。お車でのご来場はご遠慮ください。
  - ・会場となるキャンパスは「関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス」です。会場に到着されましたら、最初に、年会参加者受付にお立ち寄りください。受付は、社会学部棟入口付近にあります。

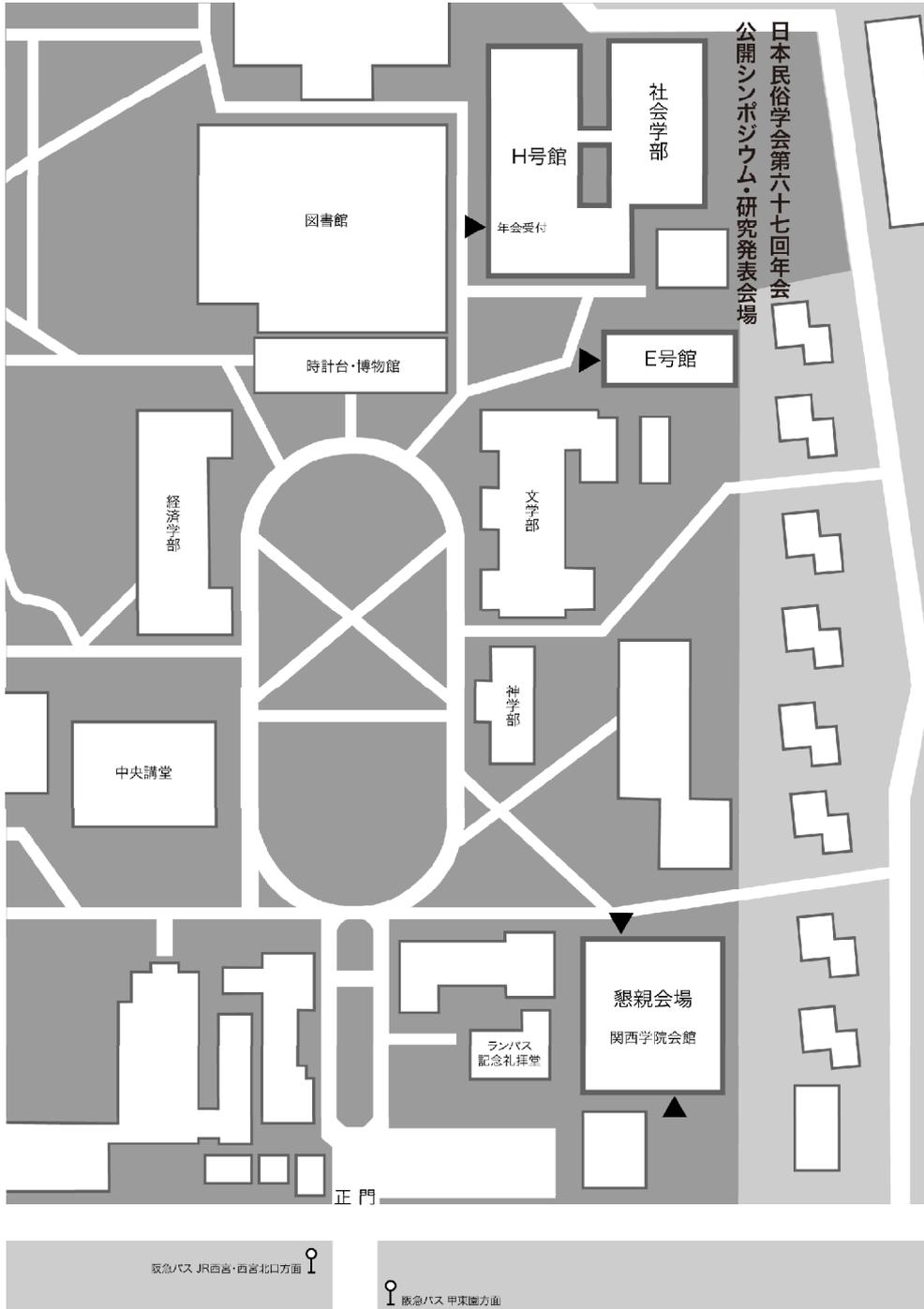
## 交通案内図



## 会場周辺案内図

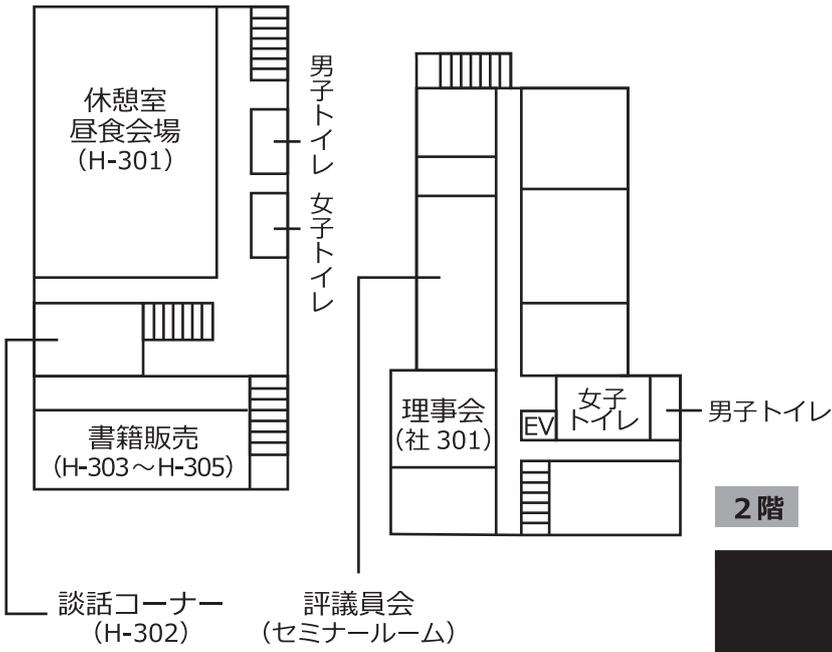


## キャンパス案内図

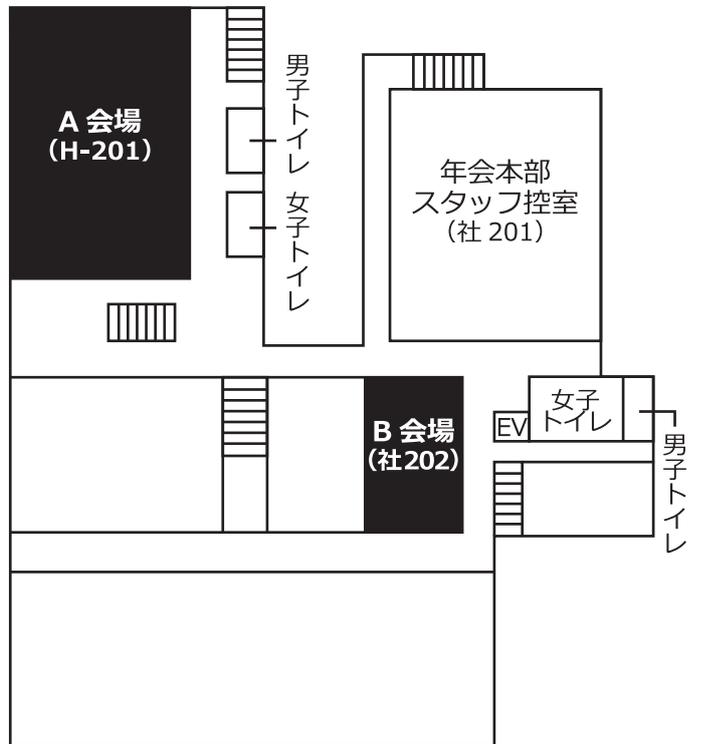


3階

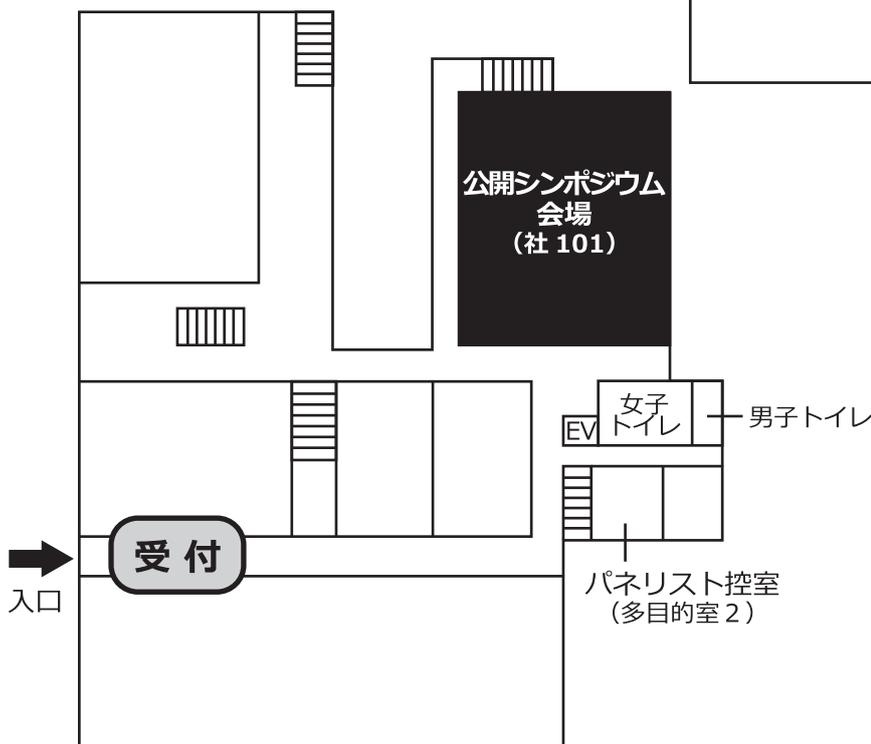
H号館・社会学部棟



2階

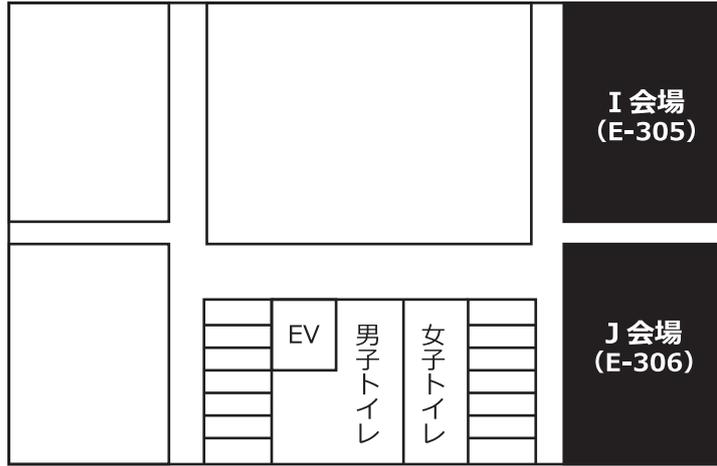


1階



# E号館

3階



2階



1階

→  
入口



## 年会参加者の皆様へ

### ■会場案内

- ・本誌に掲載されているキャンパス案内図、会場配置図、および同封のキャンパスガイドマップをご覧ください。会場は10日（土）、11日（日）とも関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスです。

### ■受付・総合案内

- ・10月10日（土）12：00～ 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス社会学部棟入口付近
- ・10月11日（日）9：00～ 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス社会学部棟入口付近
- ・受付では参加者名簿をご確認の上、名札、要旨集などをお受け取りください。
- ・当日に参加申込みをされる方は、「当日申込み受付」にてお申し込みください。当日の参加費用は、年会参加費 5,000 円、懇親会参加費 6,000 円（学生 4,000 円）です。
- ・年会参加費・懇親会参加費・見学会参加費ともに納入期限は 8月7日（金）でした。期日にて振込口座を閉鎖しておりますので、この日までに納入をされなかった参加者の方は、当日に「当日申込み受付」にてお手続き・当日参加費のお支払いをお願いいたします。
- ・一度納入いただいた参加費はいかなる理由があっても返却いたしません。
- ・参加登録をしていながら、年会参加費・懇親会参加費・見学会参加費を払込まれずに年會を欠席された場合には、年會終了後に費用を請求させていただきます。やむを得ず参加がなくなつた場合、その旨を10月3日(土)までにE-mailにて年会事務局に必ずご連絡ください。ご連絡いただいた方につきましては、これらの費用を請求いたしません。

### ■名札

- ・会場では常時、名札をお付けください。
- ・お帰りの際には、名札を回収箱へお返しくください。

### ■昼食

- ・会場付近には飲食店はございません。学内の生協食堂は、10日の 11：00 から 14：30 まで営業しています。11日の営業はありません。
- ・8月7日までにお弁当代金を納入されている方には、お弁当を用意してあります。お弁当は、受付の際にお渡しした「弁当引換券」と引き換えに、11日 11：45 から H-301 にてお渡しします。昼食は、休憩室・昼食会場（H-301）にておとりください。

### ■休憩室・昼食会場

- ・H-301 を休憩室・昼食会場としてお使いください。休憩室は、下記の談話コーナーとともに、会員間の交流スペースとしてもご自由にお使いください。なお、休憩室に貴重品を置かれませんかようご注意ください。貴重品は、必ず各自で管理してください。

### ■談話コーナー

- ・会員間の交流スペースとして H-302 に談話コーナーを設置します。抜刷の交換をはじめ、情報交換を対面で行なうだけけるよう机と椅子を用意してあります。会員間の交流の場としてご自由にお使いください。

#### ■喫煙場所

- ・大学内は所定の喫煙場所以外は禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします。  
なお、喫煙場所につきましてはスタッフにお尋ねください。

#### ■懇親会

- ・懇親会は、10日（土）18：30 より関西学院会館にて行ないます。
- ・懇親会への事前申込みをされていない方で、当日、参加を希望される方は、「当日申込み受付」にてお申込みください。当日参加費は 6,000 円（学生 4,000 円）です。

#### ■書籍販売

- ・次の場所で書籍販売を行ないます。  
H-303、H-304、H-305
- ・販売時間は、10日は 13：00 ～ 17：30、11日は 9：30 ～ 16：00です。

#### ■宅配便発送

- ・11日の研究発表プログラム終了前後に宅配便発送の受付を行ないます。詳細は、会場に掲示します。

#### ■実行委員会事務局

- ・会場内でご不明な点がございましたら、実行委員・スタッフの名札をつけた者にお尋ねください。実行委員会本部は、社 201 です。
- ・実行委員会のメールアドレス、緊急時の直通電話（当日のみ）は、つぎのとおりです。  
nenkai67@fsjnet.jp    080-3030-9480

#### ■その他

- ・発表会場内では、必ず携帯電話の電源をお切りください。
- ・発表会場内でのコピー機の利用はできません。当日配布物の必要な場合は前もってご準備をお願いいたします。

### 一般発表の皆様へ

#### ■発表受付

- ・発表者は発表の 30 分前までに各自の発表会場にて受付をお済ませください。  
ただし、午前最初の発表者の方は 9：15 まで、午後最初の発表者の方は 12：45 までに会場受付をお済ませください。
- ・発表者は、前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者の方は 9：20 より、午後最初の発表者の方は 12：50 より待機してください。

#### ■配布資料

- ・発表者は当日に資料を配布していただけますが、実行委員会で事前・当日のコピー対応はできません。必ず事前にご自身でご用意ください。配布資料は 50 部を目安にご自身でご用意のうえ、発表受付時に会場係にお渡しください。

#### ■発表機材

- ・備え付けの機材は、PC (Windows) 、PC用液晶プロジェクター、書画カメラです。LANの設備はございません。PC (Windows、Mac) の持ち込みも可能です。その場合は、PC本体および対応するアダプターをお持ち込みください。発表の形式によっては、備え付けのPCで対応できない場合があります。
- ・11日 9:00 ~ 9:20、および昼休みに各発表会場で、接続確認を行なってください。

#### ■発表時間

- ・発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- ・発表の際には以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守くださいますようお願いいたします。
  - 17 分経過……………ベル 1 回 (発表終了 3 分前)
  - 20 分経過……………ベル 2 回 (発表終了)
  - 25 分経過……………ベル 3 回 (質疑応答終了)
- ・発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間を設けております。次の発表者で機材をご使用の方は、この時間内に速やかに準備を行なってください。なお、この 5 分間を発表の延長のための時間に用いることはできません。
- ・発表者の責任により開始時間が遅れた場合には、定刻の範囲内で発表・質疑応答を行なってください。

#### ■その他

- ・事情により、やむを得ず発表できなくなった場合には、必ず実行委員会事務局または受付にお申し出ください。発表者が欠席した場合でも予定の時間割とプログラムにより進行いたします。

### 一般発表座長の皆様へ

#### ■受付

- ・ご担当の発表が始まる 30 分前までに発表会場での受付をお済ませのうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9:20 より、午後最初の座長の方は 12:50 より待機してください。

#### ■進行

- ・上記「発表時間」に記した時間通りにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間通りに行なわれるようご配慮をお願いいたします。
- ・各発表の間に設けられた 5 分間は、発表者の交代や聴講者の移動のための時間で、延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。
- ・進行中に問題が生じた場合は、各会場受付の者へお申し付けください。

## グループ発表の皆様へ

### ■発表受付

- ・各グループ発表の代表者は、メンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表時間の 30 分前までに発表会場の受付をお済ませください。

### ■発表時間

- ・発表の時間枠は、プログラムに記載されているとおりとなります。枠内の時間配分は、代表者にお任せいたします。終了時間は厳守でお願いいたします。

### ■配布資料・発表機材

- ・上記、一般発表と同様です。

## 播州の屋台祭礼見学への参加を希望される皆様へ

- ・11日（日）の夕方（研究発表終了後）、播州の屋台祭礼（高砂市荒井神社・高砂神社の屋台練りなど）見学へのご案内を実施します。どなたでもご参加いただけますが、参加ご希望の方は、当日 13:00 までに受付にお申し出ください。集合場所・時間、コースなどは次のとおりです。
- ・集合・出発：11日（日）16:45 に H-301（休憩室・昼食会場）へご集合ください。16:50 に出発します。移動は、公共交通機関を利用します。交通費は各自ご負担ください。
- ・コース：関西学院大学 16:50 出発－甲東園駅－新開地駅乗換－高砂駅－荒井神社・高砂神社（祭礼見学）－高砂駅 21:30 頃－流れ解散（三宮・梅田方面への最終電車に間に合います）。
- ・案内：大江 篤（園田学園女子大学）、八木康幸（関西学院大学）

## 見学会ご参加の皆様へ

### ■兵庫（柳田國男生家・生野銀山）コース

- ・集合・出発：12日（月・祝）9:30 に、阪急西宮北口駅南西口の集合場所（同駅南西口から出て、兵庫県立芸術文化センター北西交差点付近）にご集合ください。駅からはスタッフが道順をご案内する予定です。
- ・コース（貸切バス使用）：阪急西宮北口駅－車中説明（兵庫の民俗文化紹介）－柳田國男生家－柳田國男・松岡家記念館－大庄屋三木家－『故郷七十年』関連の地－生野銀山・口銀谷銀山町－16:30 JR姫路駅解散。コースには、福崎町辻川での昼食が含まれています。
- ・案内：大江 篤（園田学園女子大学）

### ■大阪（都市民俗）コース

- ・集合・出発：12日（月・祝）9:30 に、JR天王寺駅東口に集合してください。
- ・コース（全行程徒歩）：JR天王寺駅東口－庚申堂－四天王寺－安居神社－天神坂－一心寺（納骨堂）－合邦が辻・閻魔堂－新世界－通天閣－ジャンジャン横丁－16:30 地下鉄御堂筋線動物園前駅解散。コースには、づぼらや（新世界）での昼食が含まれています。
- ・案内：田野 登（大阪民俗学研究会）

## 公開シンポジウム「世界のなかの民俗学」（10日（土））

日本に民俗学があるのと同様に、世界のあちこちに民俗学という学問が存在します。日本民俗学の草創期、柳田國男は海外、とりわけヨーロッパの民俗学の動向を十分把握した上で、日本の民俗学の樹立につとめました。その後、日本の民俗学は、国内において独自の展開をみることとなりましたが、一方、世界各地の民俗学も、それぞれの国において発展をして今日に至っています。

このシンポジウムでは、日本と世界の民俗学の新たなあり方を、世界各地の民俗学の動向を視野に入れながら模索してゆくべく、ドイツ、アメリカから世界民俗学の第一線で活躍している民俗学者を招聘し、「世界のなかの民俗学」について考えます。

テーマ 世界のなかの民俗学  
日時 2015年10月10日（土）13:00～16:30  
会場 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 社101

基調講演 レギーナ・F・ベンディクス（独・ゲッティンゲン大学）  
「過去の大志と現在の必要：変容する政体における民俗学」  
マイケル・ディラン・フォスター（米・インディアナ大学）  
「アメリカ民俗学から見た日本民俗学」

コメント 桑山敬己（北海道大学）・山田仁史（東北大学）・山 泰幸（関西学院大学）  
司会 島村恭則（関西学院大学）

### 基調講演者紹介

**レギーナ・F・ベンディクス (Regina F. Bendix)**  
インディアナ大学ブルーミントン校修士（民俗学）、同校博士（民俗学）。ペンシルバニア大学を経て、現在、ゲオルク・アウグスト大学ゲッティンゲン（ゲッティンゲン大学）教授。専門は、文化人類学／ヨーロッパ民族学（旧民俗学）。国際民俗学会（SIEF = Société Internationale d'Ethnologie et de Folklore）会長（2001～08年）や国際民俗学誌 *Ethnologia Europaea* 編集長などを歴任。主要著書として、*In Search of Authenticity: The Formation of Folklore Studies*, University of Wisconsin Press, 1997. 共編著として、*A Companion to Folklore*, Wiley-Blackwell, 2012, *Heritage Regimes and the State*, Universitätsverlag Göttingen, 2013. などがある。

**マイケル・ディラン・フォスター (Michael Dylan Foster)**  
カリフォルニア大学バークレー校修士（東アジア研究）、スタンフォード大学博士（日本文学）。現在、インディアナ大学民俗学科准教授。専門は、日本民俗学、文学、文化研究。主要著書として、*Pandemonium and Parade: Japanese Monsters and the Culture of Yōkai*, University of California Press, 2009, 「視覚的想像—「甕島のトシドン」における見る／見られる関係の一考察—」『日本民俗学』273、2012年、*The Book of Yōkai*, University of California Press, 2015. 共編著として、*UNESCO on the Ground: Local Perspectives on Intangible Cultural Heritage*, Indiana University Press, 2015, *The Folkloresque: Reframing Folklore in a Popular Culture World*, Utah State University Press, 2015. などがある。

## ミニシンポジウム（11日（日））

### ■ 妖怪・怪異伝承を読み直す

コーディネーター：大江 篤（園田学園女子大学）

A会場（H-201） 10：00 ～ 11：55

趣旨説明 大江 篤

報告1 化野 燐（東アジア怪異学会、小説家）

「妖怪名彙」を読みなおす—「ツチコロビ」を例に一」

報告2 香川雅信（兵庫県立歴史博物館）

「妖怪名彙」と共同幻覚—「コナキジジ」を例に一」

報告3 木下 浩（岡山民俗学会理事）

「岡山の妖怪研究略史—『現行全国妖怪辞典』—」

### ■ 日本のなかの東アジア、東アジアのなかの日本：民俗学から多文化を考える

コーディネーター：松尾恒一（国立歴史民俗博物館）

B会場（社202） 10：00 ～ 11：55

趣旨説明 松尾恒一

報告1 張 玉玲（山口県立大学）

「日本華僑による「伝統」の継承、ネットワークと多文化共生」

報告2 中村和代（大分県）

「居場所をつくる人びと—福岡市内の識字教室に通う在日韓国・朝鮮人一世を事例として—」

報告3 金 賢貞（東北大学）

「現代韓国における日式住宅の観光資源化と観光経験—「九龍浦近代歴史文化通り」を事例に一」

コメント 岡田浩樹（神戸大学）

### ■ フォークライフ（民俗生活）の再文脈化

コーディネーター：小田島建己（東北大学）

D会場（E-102） 13：00 ～14：25

趣旨説明 小田島建己

報告1 小田島建己

「地蔵像から花嫁人形への変異—再文脈化されるヴァナキュラー宗教—」

報告2 デール・アンドリュース（東北学院大学）

「アニメ聖地巡礼とヴァナキュラー宗教」

報告3 リサ・ギャバート（米・ユタ州立大学）

「アメリカの医師の民俗的信念—バイオメディカルにおける再文脈化—」

■ 拡大する民俗学：近現代史をとりこむ試み

コーディネーター：高岡弘幸（福岡大学）

D会場（E-102） 14：30 ～ 16：25

趣旨説明	高岡弘幸
報告1	高岡弘幸 「民俗学的現在と近現代の歴史、そして記憶」
報告2	後藤晴子（福岡大学非常勤講師） 「「わたし」の語りかた—一個人の生活史と記憶をめぐる問題—」
報告3	松村薫子（国際日本文化研究センター） 「地域集団における伝承の継承と変容—広島県三次市「物怪プロジェクト三次」の地域おこし活動を中心に—」
報告4	川村清志（国立歴史民俗博物館） 「文化財レスキューと生活文化の再編成」
コメント	島村恭則（関西学院大学）

# 研究発表

一般発表

グループ発表

2015年10月11日(日)  
9:30 ~ 16:30

## 11日 研究発表タイムテーブル

会場	A	B	C	D	E
教室	H-201	社 202	E-101	E-102	E-103
定員	300	110	60	120	70
09:30~09:55	A-1 陸 薇薇	B-1 宮下良子	C-1 早栗佐知子	D-1 田村和彦	E-1 橋本好史
10:00~10:25	A-2	B-2	C-2 俵谷和子	D-2 岸本昌良	E-2 三浦孝一
10:30~10:55	大江 篤 化野 燐	松尾恒一 張 玉玲	C-3 嶺岡美見	D-3 出口雅敏	E-3 坂本東男
11:00~11:25	香川雅信 木下 浩	中村和代 金 賢貞	C-4 鈴木昴太	D-4 河野 眞	E-4 アレクサン ダー・ギンナン
11:30~11:55		岡田浩樹	C-5 熊澤美弓	D-5 金城ハウ プトマン朱美	E-5 青江智洋
休憩					
13:00~13:25	A-3 才津祐美子	B-3 小山 悠	C-6 近藤直也	D-6	E-6 毛 久燕
13:30~13:55	A-4 稲村 務	B-4 加藤幸治	C-7 藪 元晶	小田島建己 デール・アンドリ ューズ	E-7 谷岡優子
14:00~14:25	A-5 小熊 誠	B-5 政岡伸洋	C-8 井上卓哉	リサ・ギャバート	E-8 八木康幸
14:30~14:55	A-6	B-6 山下裕作	C-9 小村純江	D-7	E-9 小池淳一
15:00~15:25	菅 豊 塚原伸治	B-7 加藤秀雄	C-10 河合久和	高岡弘幸 後藤晴子	E-10 小掠裕樹
15:30~15:55	金子祥之 矢野晋吾	B-8 川松あかり	C-11 石川俊介	松村薫子 川村清志	E-11 加藤英明
16:00~16:25		B-9 鈴木寛之	C-12 渡瀬綾乃	島村恭則	E-12 青木啓将

会 場	F	G	H	I	J
教 室	E-104	E-205	E-206	E-305	E-306
定 員	70	70	70	70	70
09:30~09:55	F-1 立柳 聡	G-1 阿部友紀	H-1 石垣絵美	I-1 下田雄次	J-1 波田尚大
10:00~10:25	F-2 湯 紹玲	G-2 菊田祥子	H-2 村田典生	I-2 松岡 薫	J-2 辻本侑生
10:30~10:55	F-3 葉山 茂	G-3 中里亮平	H-3 吉村典子	I-3 黛 友明	J-3 廣部綾乃
11:00~11:25	F-4 熊 華磊	G-4 三隅貴史	H-4 村上紀夫	I-4 伊藤奈保子	J-4 中山正典
11:30~11:55	F-5 小早川道子	G-5 浮葉正親	H-5 川嶋麗華	I-5 石本敏也	J-5 遠藤健悟
休 憩					
13:00~13:25	F-6 宮平盛晃	G-6 猪岡叶英	H-6 山田慎也	I-6 矢島妙子	J-6 尾曲香織
13:30~13:55	F-7 福 寛美	G-7 酒向伸行	H-7 刀根卓代	I-7 広尾克子	J-7 今井雅之
14:00~14:25	F-8 古谷野洋子	G-8 山田巖子	H-8 由谷裕哉	I-8 樽井由紀	J-8 伏見裕子
14:30~14:55	F-9 阿利よし乃	G-9 田中久美子	H-9 小島摩文	I-9 富田安子	J-9 山田祐紀
15:00~15:25	F-10 越智郁乃	G-10 胡 艶紅	H-10 松本博明	I-10 土居 浩	J-10 平山諭二
15:30~15:55	F-11 森田真也	G-11 原田寿真	H-11 MANGIN Alexandre	I-11 廣田龍平	J-11 川野和昭
16:00~16:25	F-12 角南聡一郎	G-12 村松彰子	H-12 和田 健	I-12 田村明子	J-12 関口知誠

■A 会場 H-201 教室 (定員 300)

A-1 09:30 ~ 09:55 陸 薇薇 (中国・南京市)

河童と中国

A-2 10:00 ~ 11:55 《ミニシンポジウム》 妖怪・怪異伝承を読み直す

コーディネーター：大江 篤 (園田学園女子大学)

趣旨説明 大江 篤

報告 1 化野 燐 (東アジア怪異学会、小説家)

「妖怪名彙」を読みなおす—「ツチコロビ」を例に—

報告 2 香川雅信 (兵庫県立歴史博物館)

「妖怪名彙」と共同幻覚—「コナキジジ」を例に—

報告 3 木下 浩 (岡山民俗学会理事)

岡山の妖怪研究略史—『現行全国妖怪辞典』—

A-3 13:00 ~ 13:25 才津祐美子 (長崎大学)

枯松神社祭の創出と旧キリシタン

A-4 13:30 ~ 13:55 稲村 務 (琉球大学)

「伝統的知識」と民俗—中国・台湾・沖縄奄美の ABS 法を考える—

A-5 14:00 ~ 14:25 小熊 誠 (神奈川大学)

首里城をめぐる創造された世界遺産と地元の民俗儀礼

A-6 14:30 ~ 16:25 《グループ発表》 公共民俗学の現場—地域文化をめぐる「ずれる

／ずらす」現実をとらえる—

代表者：菅 豊 (東京大学東洋文化研究所)

報告 1 菅 豊

「無形文化遺産」という言葉が喚起したもの—私の地域文化への介入、そして地域の人びとの「ずれた／ずらした」レスポンス—

報告 2 塚原伸治 (茨城大学)

担い手が「研究者」になること—私と彼らの「ずれ」と、彼らの「ずらし」—

報告 3 金子祥之 (東京大学東洋文化研究所)

原発災害からの帰村と「食」への不安—マイナー・サブシステムをめぐる困難—

報告 4 矢野晋吾 (青山学院大学総合文化政策学部)

地域文化の“資源化”と多様化するアクター—諏訪地域における御柱祭の事例—

■B会場 社 202 教室（定員 110）

- B-1 09:30 ～ 09:55 宮下良子（大阪市立大学）  
下関と釜山の海峡をまたぐコリアンの移動の民俗誌／史
- B-2 10:00 ～ 11:55 《ミニシンポジウム》 日本のなかの東アジア、東アジアのなかの日本：民俗学から多文化を考える  
趣旨説明 松尾恒一（国立歴史民俗博物館）  
報告1 張 玉玲（山口県立大学）  
日本華僑による「伝統」の継承、ネットワークと多文化共生  
報告2 中村和代（大分県）  
居場所をつくる人びと—福岡市内の識字教室に通う在日韓国・朝鮮人一世を事例として—  
報告3 金 賢貞（東北大学）  
現代韓国における日式住宅の観光資源化と観光経験—「九龍浦近代歴史文化通り」を事例に—  
コメント 岡田浩樹（神戸大学）
- B-3 13:00 ～ 13:25 小山 悠（東北学院大学大学院）  
集落の復興とホタテガイ養殖業の繋がり  
—宮城県石巻市雄勝町の一集落の事例から—
- B-4 13:30 ～ 13:55 加藤幸治（東北学院大学文学部）  
牡鹿半島における震災復興と食の文化資源化
- B-5 14:00 ～ 14:25 政岡伸洋（東北学院大学）  
被災地のこれまでとこれから—宮城県本吉郡南三陸町戸倉波伝谷の場合—
- B-6 14:30 ～ 14:55 山下裕作（熊本大学）  
自治防災用 GIS システムを用いた民俗資料の再生・利活用構想
- B-7 15:00 ～ 15:25 加藤秀雄（成城大学民俗学研究所）  
芸予諸島・鵜島における＜歴史＞の構成—伝承と歴史の結節点をめぐって—
- B-8 15:30 ～ 15:55 川松あかり（東京大学大学院生）  
記憶を語り継ぐことの現在—筑豊旧炭鉱地域で私が出会った人とその実践から—
- B-9 16:00 ～ 16:25 鈴木寛之（熊本県）  
趣味と人生—ある洋菓子店主の個人史から—

■C会場 E-101 教室（定員 60）

- C-1 09:30 ～ 09:55 早栗佐知子（西宮市立郷土資料館嘱託）  
六甲修験と雨乞いの翁面
- C-2 10:00 ～ 10:25 俵谷和子（西宮市立郷土資料館）  
徳本名号石を建立する理由について
- C-3 10:30 ～ 10:55 嶺岡美見（御影史学研究会）  
豊前の飛鉢説話
- C-4 11:00 ～ 11:25 鈴木昴太（総合研究大学院大学 後期博士課程）  
広島県庄原市西城町八鳥地区の荒神信仰—信仰の担い手としての「地頭」—
- C-5 11:30 ～ 11:55 熊澤美弓（豊橋技術科学大学非常勤講師）  
徳川政権と白澤避怪図—戸隠御師における受容の一考察—
- C-6 13:00 ～ 13:25 近藤直也（九州工業大学）  
土佐ドウロクジン考
- C-7 13:30 ～ 13:55 藪 元晶（御影史学研究会）  
天川弁才天と役行者伝承
- C-8 14:00 ～ 14:25 井上卓哉（富士市立博物館）  
志摩市浜島町南張における富士講行事の変容—「南張富士講書類」の分析を中心に
- C-9 14:30 ～ 14:55 小村純江（神奈川大学大学院生）  
現代に生きる妙見の軌跡—秩父地方を事例として—
- C-10 15:00 ～ 15:25 河合久和（岡山民俗学会）  
干拓地の地神信仰
- C-11 15:30 ～ 15:55 石川俊介（長野県）  
御社宮司を降ろす、境を締める—長野県諏訪の御頭郷祭祀—
- C-12 16:00 ～ 16:25 渡瀬綾乃（筑波大学大学院生）  
真宗大谷派鹿児島教区における在勤制度の受容と利用

■D会場 E-102 教室（定員 120）

- D-1 09:30 ～ 09:55 田村和彦（福岡大学）  
民俗学系雑誌からみた中国民俗学の動向—『民俗研究』と、『民間文化論壇』とを事例として—
- D-2 10:00 ～ 10:25 岸本昌良（東京都）  
Folk-Lore の生みの親、Thoms は Residence に住んでいたのか？—The Folk-Lore Society 成立小史—
- D-3 10:30 ～ 10:55 出口雅敏（東京学芸大学）  
フランス民族学の 21 世紀—1990 年代以降のいくつかの傾向について—
- D-4 11:00 ～ 11:25 河野 眞（愛知大学・教授）  
法民俗学—ドイツ語圏における歴史民俗学の刷新とその背景
- D-5 11:30 ～ 11:55 金城ハウプトマン朱美（インディペンデント・フォークロリスト）  
無形文化遺産とドイツ民俗学
- D-6 13:00 ～ 14:25 《ミニシンポジウム》 フォークライフ（民俗生活）の再文脈化  
代表者： 小田島建己（東北大学）  
報告 1 小田島建己  
地蔵像から花嫁人形への変異—再文脈化されるヴァナキュラー宗教—  
報告 2 デール・アンドリュース（東北学院大学）  
アニメ聖地巡礼とヴァナキュラー宗教  
報告 3 リサ・ギャバート（ユタ州立大学）  
アメリカの医師の民俗的信念—バイオメディカルにおける再文脈化—
- D-7 14:30 ～ 16:25 《ミニシンポジウム》 拡大する民俗学—近現代史をとりこむ試み  
代表者： 高岡弘幸（福岡大学）  
報告 1 高岡弘幸  
民俗学的現在と近現代の歴史、そして記憶  
報告 2 後藤晴子（福岡大学非常勤講師）  
「わたし」の語りかた—個人の生活史と記憶をめぐる問題—  
報告 3 松村薫子（国際日本文化研究センター）  
地域集団における伝承の継承と変容—広島県三次市「物怪プロジェクト三次」の地域おこし活動を中心に—  
報告 4 川村清志（国立歴史民俗博物館）  
文化財レスキューと生活文化の再編成  
コメント 島村恭則（関西学院大学）

■E会場 E-103 教室（定員 70）

- E-1 09:30 ～ 09:55 橋本好史（伊勢民俗学会）  
海外の盃状穴—韓国・中国を中心にして—
- E-2 10:00 ～ 10:25 三浦孝一（加古川市文化財保護協会副会長）  
国内における盃状穴の変遷
- E-3 10:30 ～ 10:55 坂本東男（高知工科大学、名誉教授）  
英国産業革命に於ける蒸気機関車開発の Richard Trevithick の執念
- E-4 11:00 ～ 11:25 アレクサンダー・ギンナン（鳥取大学大学院地域学研究科）  
20世紀鳥取の残像—民俗資料としての近代芸術—
- E-5 11:30 ～ 11:55 青江智洋（京都府）  
奨励された副業—京都における農民美術運動の展開—
- E-6 13:00 ～ 13:25 毛 久燕（新潟大学大学院）  
中国浙江省舟山の解放前の布袋木偶戯—定海木偶芸人侯惠義の話から見る—
- E-7 13:30 ～ 13:55 谷岡優子（関西学院大学大学院）  
地方花柳界の現代的展開—愛媛県松山市の花柳界を事例に—
- E-8 14:00 ～ 14:25 八木康幸（関西学院大学）  
戦後における男鹿半島の観光化と「男鹿のナマハゲ」
- E-9 14:30 ～ 14:55 小池淳一（東京都）  
巻物の生成とその位相—福島県会津地方の事例から—
- E-10 15:00 ～ 15:25 小掠裕樹（神奈川大学大学院）  
絵図に描かれたろくろ—二つの疑問を解く—
- E-11 15:30 ～ 15:55 加藤英明（南山大学大学院）  
道具使用からみる機械工の創造性—愛知県刈谷市の町工場を事例に—
- E-12 16:00 ～ 16:25 青木啓将（早稲田大学人間総合研究センター）  
近代科学と日本刀の＜出会い＞—「民俗技術」と「科学」に関する一考察—

■F会場 E-104 教室（定員 70）

- F-1 09:30 ～ 09:55 立柳 聡（福島県立医科大学）  
餅なし正月と村落構造
- F-2 10:00 ～ 10:25 湯 紹玲（国立民族学博物館 外来研究員）  
近年のムラの盆行事とイエの盆行事の変容—滋賀県甲賀市信楽町多羅尾を事例に—
- F-3 10:30 ～ 10:55 葉山 茂（国立歴史民俗博物館）  
家と地域からみる生業変容—宮城県気仙沼のファミリー・ヒストリーを事例に—
- F-4 11:00 ～ 11:25 熊 華磊（鹿児島大学大学院人文社会科学研究所）  
花見研究再考—鹿児島県伊佐市大口における「集落の花見」の受容と変遷—
- F-5 11:30 ～ 11:55 小早川道子（中京大学講師）  
「祭り魚」としてのボラ—西三河平野部のボラ利用について—
- F-6 13:00 ～ 13:25 宮平盛晃（日本学術振興会 特別研究員）  
琉球諸島における動物供犠
- F-7 13:30 ～ 13:55 福 寛美（法政大学沖縄文化研究所）  
聖域論—書き換えと隠蔽という視点から—
- F-8 14:00 ～ 14:25 古谷野洋子（神奈川大学大学院日本常民文化研究所特別研究員）  
沖縄ミロク信仰の再検討—宮古地方のミロク御嶽の事例から—
- F-9 14:30 ～ 14:55 阿利よし乃（沖縄県）  
女性神役の継承方式—沖縄県石垣島新川の事例—
- F-10 15:00 ～ 15:25 越智郁乃（兵庫県立大学）  
現代沖縄の軍用跡地における村落祭祀の「復活」—那覇市新都心を事例に—
- F-11 15:30 ～ 15:55 森田真也（筑紫女学園大学）  
占領下における「文化」の描き方／読み方—戦後沖縄における米軍広報誌の内容と役割—
- F-12 16:00 ～ 16:25 角南聡一郎（奈良県）  
旧日本植民地に遺された文化—台湾・韓国の日式表札—

■G会場 E-205 教室（定員 70）

- G-1 09:30 ～ 09:55 阿部友紀（宮城県）  
漁村における民俗信仰の多層構造について—日本海の事例から—
- G-2 10:00 ～ 10:25 菊田祥子（東京都）  
都市祭礼における女性—成田祇園祭を事例として—
- G-3 10:30 ～ 10:55 中里亮平（東京都）  
誰のために山車はいく—神様、仏様、殿様、お客様—
- G-4 11:00 ～ 11:25 三隅貴史（関西学院大学大学院）  
都市祭礼研究と「神輿会」
- G-5 11:30 ～ 11:55 浮葉正親（名古屋大学）  
ソウルの村祭り—三角山都堂祭を中心に—
- G-6 13:00 ～ 13:25 猪岡叶英（大阪大学大学院）  
「位牌」「香炉」の継承にみる本土沖縄出身者の戦後生活史—在阪沖縄第2・3世代  
による祖先祭祀の実践を中心に—
- G-7 13:30 ～ 13:55 酒向伸行（御影史学研究会）  
「狂気」と憑霊—室町中期を中心として—
- G-8 14:00 ～ 14:25 山田巖子（青森県）  
「潜在的な宗教者」をめぐる予備的考察—オシラ神信仰者をめぐる—
- G-9 14:30 ～ 14:55 田中久美子（福岡工業大学）  
女性の講の解散にみる地域のつきあいと家族
- G-10 15:00 ～ 15:25 胡 艶紅（筑波大学）  
信仰の政治的弾圧と復興を生きた宗教職能者たち—中国・太湖漁民社会の事例  
から—
- G-11 15:30 ～ 15:55 原田寿真（国立療養所菊池恵楓園 社会交流会館 学芸員）  
ハンセン病療養所の中の国家神道—国立療養所菊池恵楓園内に設置された恵楓神社  
の事例から—
- G-12 16:00 ～ 16:25 村松彰子（相模女子大学）  
治癒をめぐる人びとの協同性についての一考察—専門家に＜任せる＞ことの相違  
から—

■H会場 E-206 教室 (定員 70)

- H-1 09:30 ~ 09:55 石垣絵美 (國學院大學大学院)  
疱瘡をめぐる神と祭り
- H-2 10:00 ~ 10:25 村田典生 (佛教大学)  
死と向き合う民俗信仰—ぽっくり信仰についての考察—
- H-3 10:30 ~ 10:55 吉村典子 (出産文化研究)  
近代医療に基づく産婆養成教育はどのような意図と安産観を基に始まったか
- H-4 11:00 ~ 11:25 村上紀夫  
近世京都の惣堂と火屋—粟田口良恩寺—
- H-5 11:30 ~ 11:55 川嶋麗華 (國學院大學大学院)  
ノヤキ (旧来の火葬) の技術と伝承
- H-6 13:00 ~ 13:25 山田慎也 (国立歴史民俗博物館)  
葬儀における行政の関与—長野県松本市の例を中心に—
- H-7 13:30 ~ 13:55 刀根卓代 (東京都)  
柳田國男とヒューマニズム—手帖「明治三十年伊勢海ノ資料」をもとに—
- H-8 14:00 ~ 14:25 由谷裕哉 (小松短期大学)  
民俗研究から見た小田内通敏：郷土観に注目しながら
- H-9 14:30 ~ 14:55 小島摩文 (鹿児島純心女子大学大学院)  
赤羽王郎—民俗学をしなかった人々：『白樺』周辺と民俗学—
- H-10 15:00 ~ 15:25 松本博明 (岩手県立大学盛岡短期大学部)  
折口信夫旧蔵「民俗学資料」について
- H-11 15:30 ~ 15:55 MANGIN Alexandre (立教大学文学部文学科フランス文学専修助教)  
映画『怒りの孤島』と宮本常一—フィクションと民俗学—
- H-12 16:00 ~ 16:25 和田 健 (千葉大学)  
官製運動における通俗教育と陋習の同時代的交差—生活改善運動と農村漁村経済  
更正運動の接続—

■I 会場 E-305 教室 (定員 70)

- I-1 09:30 ~ 09:55 下田雄次 (青森県)  
「民俗芸能の〈余興〉的实践」—青森県津軽地方の祭囃子を題材に—
- I-2 10:00 ~ 10:25 松岡 薫 (筑波大学大学院/韓国・中央大学校)  
祭礼の趣向に関する一考察—俄・造り物・仮装行列から—
- I-3 10:30 ~ 10:55 黛 友明 (大阪大学大学院)  
太夫家の始まりと終わり—伊勢大神楽の事例から—
- I-4 11:00 ~ 11:25 伊藤奈保子 (広島大学文学研究科准教授)  
伝統芸能・神楽の継承—東広島市立河内小学校の試み—
- I-5 11:30 ~ 11:55 石本敏也 (茨城県)  
村落解体後の民俗—茨城県古河市におけるササラの継承—
- I-6 13:00 ~ 13:25 矢島妙子 (明治大学 法と社会科学研究所)  
「地方」における中心と周縁—ローカルヒーローにみる地域表象—
- I-7 13:30 ~ 13:55 広尾克子 (関西学院大学大学院)  
都市住民とカニ—「かに道楽」創業者のライフヒストリーから—
- I-8 14:00 ~ 14:25 樽井由紀 (奈良女子大学古代学学術研究センター)  
ベルツ博士と温泉—伊香保温泉の事例から—
- I-9 14:30 ~ 14:55 富田安子 (埼玉県)  
温泉地観光と信仰環境—民俗祭事を中心に
- I-10 15:00 ~ 15:25 土居 浩 (ものづくり大学)  
卒業研究の民俗学的考察—近年の民俗学関係卒業論文発表会に送り出した立場から—
- I-11 15:30 ~ 15:55 廣田龍平 (筑波大学)  
日本の妖怪は creature なのか?—民俗的事象の文化翻訳にみる概念の可能性—
- I-12 16:00 ~ 16:25 田村明子 (成城大学大学院)  
神楽の伝え方と見せ方—稽古の在り方を通して—

■J会場 E-306 教室 (定員 70)

- J-1 09:30 ~ 09:55 波田尚大 (國學院大學大学院)  
竹の種類とその利用
- J-2 10:00 ~ 10:25 辻本侑生 (浜銀総合研究所)  
越美山地における焼畑の禁止と地域社会—過去の民俗誌データの2次分析から—
- J-3 10:30 ~ 10:55 廣部綾乃 (龍谷大学大学院)  
山の暮らしから見る茶の利用—宮城県児湯郡西米良村の事例を中心に—
- J-4 11:00 ~ 11:25 中山正典 (静岡県)  
天竜川下流域左岸の農業用水と「民俗的」景観—寺谷用水受益地における景観の捉え方について考える—
- J-5 11:30 ~ 11:55 遠藤健悟 (東北学院大学大学院)  
現代の地域社会における旧地主層を考える—宮城県大崎市三本木新沼地区の事例から—
- J-6 13:00 ~ 13:25 尾曲香織 (茨城県)  
共有膳椀の保管と処分—静岡市清水区由比を事例として—
- J-7 13:30 ~ 13:55 今井雅之 (東北歴史博物館)  
大型農業機械の選択と利用からみる農業近代化—秋田八郎潟の開拓農村を事例に—
- J-8 14:00 ~ 14:25 伏見裕子 (佛教大学等非常勤講師)  
香川県伊吹島における出部屋の閉鎖過程とその意味
- J-9 14:30 ~ 14:55 山田祐紀 (新潟大学大学院生)  
軒前にみる割地慣行と村落社会—新潟県旧西蒲原郡の事例から—
- J-10 15:00 ~ 15:25 平山諭二 (國學院大學大学院)  
共有性を持つ土地の入会的利用について
- J-11 15:30 ~ 15:55 川野和昭 (鹿児島県)  
南九州の供犠と供養
- J-12 16:00 ~ 16:25 関口知誠 (神奈川大学大学院博士後期課程)  
現代における共有地の維持に関する論理—徳島県A町B地区の事例から—



## 日本民俗学会第67回年会実行委員会

- 年会会長 小熊 誠
- 実行委員長 八木康幸
- 実行委員 市川秀之・板橋春夫・内田忠賢・梅屋潔・及川祥平・大江篤・柿本雅美・門田岳久・金子直樹・川森博司・笹原亮二・島村恭則・谷岡優子・田野登・樽井由紀・塚原伸治・西岡陽子・古川彰・村上忠喜・八木康幸・山泰幸
- 事務局長 島村恭則
- 事務局 岡本真生・金子直樹・島村恭則・谷岡優子・中本美沙恵・福田珠己・三隅貴史・八木康幸・山泰幸
- 特別協力者 平山美雪・森明子

日本民俗学会第67回年会実行委員会  
関西学院大学社会学部 島村恭則 研究室 気付  
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155  
Tel 0798-54-6192 Fax 0798-51-0955  
E-mail : nenkai67@fsjnet.jp  
URL : <http://www.nenkai.fsjnet.jp/>

